



---

# 東京大学推薦入試FAQ

---

2014年5月



2014年5月20日

I 推薦入試の目的等について .....	2
1. 推薦入試の目的について.....	2
2. 前期日程試験との関係について.....	3
II アドミッション・ポリシー、出願資格、募集人員、選抜方法等について .....	3
1. アドミッション・ポリシーについて.....	3
2. 出願資格について .....	3
3. 募集人員について .....	4
4. 推薦人数について .....	5
5. 書類選考について .....	5
6. 面接方法等について.....	6
7. 大学入試センター試験について.....	6
8. 提出書類の様式について.....	7
9. 入学後の学修について.....	8
III 学部が求める書類等について .....	8
1. 外国語の検定試験について.....	8
2. 「総合的な学習の時間」の成果について.....	9
3. 国際バカロレアについて.....	9
4. 海外留学経験について.....	9

## I 推薦入試の目的等について

### 1. 推薦入試の目的について

#### Q 1. なぜ推薦入試を導入するのですか？

A 1. 本学では、多様な学生構成を実現し、そのことによって学部教育の更なる活性化を進めることを目標としています。

現行の後期日程試験も前期日程試験とは異なるタイプの学生、具体的には「学問を俯瞰的にとらえることができる学生の確保」を目指して設計されたものですが、現在の後期日程試験で実現できているよりも更に多様な学生構成を実現するため、現行の後期日程試験の後継として、書類選考及び面接等に大学入試センター試験の結果を組み合わせた方法で実施する本推薦入試を導入することを決定しました。

選抜に当たっては、受験対策を超えた多様な取組を教育の一環として行う高等学校等が近年増え続けていることを視野に入れ、その成果を適切に評価していきたいと考えています。

#### Q 2. 推薦入試は、従来のペーパーテストによる一般入試のような公平性を保てますか？

A 2. 現在の一般入試が「公平性」の面で高い評価を得ていることは確かですが、一方で、学力試験の訓練に習熟した者が有利になる結果、アドミッション・ポリシーに掲げる「期待する学生像」に合致した、ペーパーテストでは評価しにくい優れた能力を持つ学生の確保という面では、改善の余地があります。

今回導入する推薦入試は、ペーパーテストの点数を主として評価するという従来の入試システムとは異なる尺度で選抜を行うこととなりますが、受験生間の公平性に充分配慮した選抜を行うことについては変わりありません。

## 2. 前期日程試験との関係について

Q 1. 前期日程試験に変更はありませんか？

A 1. 前期日程試験は、本学の入試制度の基本となる仕組みとして定着しており、試験問題の質・水準に対する評価も高いと認識しています。このため、前期日程試験の変更については予定していません。

Q 2. 推薦入試に不合格になった場合は、東京大学の前期日程試験を受験できますか？

A 2. 受験可能です。ただし、推薦入試の合格発表は2月上旬（2月10日前後）を予定していますが、前期日程試験の出願期間は1月下旬から2月上旬（26年度入試：1月27日～2月5日）のため、推薦入試に不合格になった場合に備えて、予め本学の前期日程試験に出願する必要があります。なお、推薦入試に合格した場合は、前期日程試験の合格者にはなりません。

## Ⅱ アドミッション・ポリシー、出願資格、募集人員、選抜方法等について

### 1. アドミッション・ポリシーについて

Q 1. 推薦入試では、どのような志願者を求めますか？

A 1. 本推薦入試では、アドミッション・ポリシーの「推薦入試の基本方針」に掲げているように、本学で教育・研究が行われている特定の分野や活動に関する卓越した能力、もしくは極めて強い関心や学ぶ意欲を持つ志願者を求めます。

### 2. 出願資格について

Q 1. 過年度卒業生も推薦入試に応募できますか？

A 1. 各学部が定める推薦要件に該当し、学校長が責任を持って推薦できる者であれば、過年度卒業生も応募できます。ただし、各書類において求める志願者の学習成果等については、原則として高等学校等在学中のものとしします。

---

Q 2. 外国の高等学校の卒業生は、この推薦入試には応募できないのですか？

A 2. 推薦入試では、日本の高等学校等（文部科学大臣が認定した在外教育施設を含む）との連携を重視していることから、外国学校の卒業生については出願資格がないものとしています。なお、外国学校卒業学生を対象とした特別選考（[http://www.u-tokyo.ac.jp/stu03/e01\\_02\\_04\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/stu03/e01_02_04_j.html)）を別々に実施しています。

### 3. 募集人員について

---

Q 1. 東京大学はこれまで科類ごとに募集を行ってきましたが、推薦入試に関しては学部ごとの募集としたのはなぜですか？

A 1. 推薦入試では、本学で教育・研究が行われている特定の分野や活動に関する卓越した能力、もしくは極めて強い関心や学ぶ意欲を持つ志願者を求めることとしています。このためには、学部ごとに求める学生像やカリキュラム・ポリシー、推薦要件等を定め、志願者や高等学校等に伝えたいメッセージを明確にすることが必要であると判断しました。

---

Q 2. 各学部の募集人員の「××人程度」というのはどういうことですか？

A 2. 「程度」というのは、それ以上も以下もあり得るということです。各学部の求める学生像に基づき、合格者を決定するためです。合格者数が募集人員に満たない場合は、原則としてその不足数を前期日程試験の募集人員に繰り入れます。合格者数が募集人員を超える場合でも、前期日程試験の募集人員を削減することはありません。

---

Q 3. 将来にわたって100人という募集人員規模を維持するのですか？

A 3. 当面の規模は100人と考えています。将来的な規模をどうするかについては、導入後の推薦入試の実施状況や学生の入学後の学修状況などを検証しつつ検討していきます。

#### 4. 推薦人数について

Q 1. なぜ推薦人数が「男女各 1 人」なのですか？男女いずれかのみしか在籍しない高校は 1 人しか推薦できず不公平ではありませんか？

A 1. 本学では、学生の多様性を向上させるため、2020年までに女子学生の比率を30%とすることを目標に掲げ、女子高校生に特化した大学説明会の実施などの取組を進めていますが、平成26年度入試における状況をみると、女子入学者の割合は全体の19.2%にとどまっています。

このような状況を踏まえ、この推薦入試では多様性を高めた上で選抜を実施することについて、十分な検討を重ねました。その結果、全国どの地域の高等学校等からも同じように推薦が可能で、かつ、その人数を男女それぞれ各 1 人との枠組みとすることを決定しました。

#### 5. 書類選考について

Q 1. 書類選考は、どのような基準に基づいて行うのですか？

A 1. 本学がアドミッション・ポリシーや募集要項で示す「学生像」、「推薦要件」に照らし、提出書類の内容を評価します。とりわけ、特定分野における卓越性や強い関心・意欲を審査することになります。詳細は今後引き続き検討していきます。

Q 2. 書類選考を経て面接等を受けられるのはどの程度の人数になりますか？

A 2. 面接等を受けられるのは、出願書類の内容による第 1 次選考（書類選考）に合格した者であり、予め人数を明示することは困難です。概ね学部ごとに募集人員の 2～3 倍程度となるのではないかと考えています。

## 6. 面接方法等について

Q 1. 面接等はどのように行うのですか？

A 1. 学部によって実施方法は異なりますが、プレゼンテーションや課題遂行を含む面接、グループ・ディスカッション、小論文の作成などを予定しています。実施方法の詳細については、平成27年7月頃の募集要項公表までに決定する予定です。

## 7. 大学入試センター試験について

Q 1. なぜ大学入試センター試験を課すのですか？書類選考と面接等のみで選考することはできないのですか？

A 1. 本学の教育理念として、幅広いリベラル・アーツの学修を前提としており、そのためには、現在の大学入試センター試験で課されている程度の基礎学力は必要と考えています。

合否判定は、出願書類の内容、面接等の審査結果、大学入試センター試験の成績の3つを総合的に評価して決定します。合否判定に当たっては、大学入試センター試験の成績のみを重視することは考えておらず、また、成績の利用方法としても、1点刻みではなく、入学後の学修を円滑に行い得る基礎学力を有しているかどうかを判定する観点から、概ね8割以上の得点であるかどうかを目安として判断することとしています。

Q 2. 概ね8割以上の得点であることを目安とした根拠は何ですか？概ね8割以上とは、どれくらいの点数をいうのですか？

A 2. 国立大学進学希望者の大学入試センター試験の得点の状況や、本学の前期日程試験の第1段階選抜における受験者の得点分布なども勘案し決定しました。

概ね8割以上とは、720点程度、ただし、医学部医学科においては、780点程度の得点であることを目安として考えています。

---

Q 3. 医学部医学科のみ、目安とする得点が高いのはなぜですか？

---

A 3. 医学部医学科においては、推薦入試による入学者は、通常の医学科カリキュラムに加えて研究者育成のための特別プログラムに参加し、学業と研究活動を両立させる必要があります。この観点から、学力を判断するための大学入試センター試験の得点の目安を780点程度に設定しています。

---

Q 4. 大学入試センター試験の教科・科目の設定は、一般入試と同様ですか？

---

A 4. 一般入試（前期日程試験）と基本的に同様です。ただし、英語リスニングの成績については、前期日程試験ではこれが含まれていませんが、推薦入試では含めることとしています。前期日程試験で英語リスニングを含めていないのは、第二次学力試験で本学独自の聞き取り試験を実施するからですが、推薦入試では本学独自の聞き取り試験を実施する機会がないために、大学入試センター試験の英語リスニングの成績を含めることとしました。

## 8. 提出書類の様式について

---

Q 1. 提出書類の様式は、いつ頃発表されるのですか？

---

A 1. 提出書類の様式を含め、平成28年度推薦入試に係る事項について、最終的に決定・公表するのは平成27年7月頃を予定しています。



## 9. 入学後の学修について

Q 1. 推薦入試での入学者については、進学振分けの対象にならないという理解で良いのですか？また、学科やコースまで進学先が決定するのですか？

A 1. 推薦入試によって入学した者については、原則として、出願時に志望した学部等へ進学することとなり、進学振分けの対象にはなりません。また、入学時点で進学先をどの程度細かく決定するか（学部までとするか、さらに学科やコース等まで決定するかなど）は、現在、各学部において検討中です。

Q 2. 決定した進学先を変更することはできますか？

A 2. 原則として、出願時に志望した学部等に進学することになります。

Q 3. 前期課程は志望学部が指定する科類で学修することになっていますが、対応する科類が複数あるのはなぜですか？

A 3. 複数の科類が記載されている学部は、本人の志望する分野や学科等に進学するにあたり、どの科類で学修することが望ましいか個別に指定することにした学部です。

## Ⅲ 学部が求める書類等について

### 1. 外国語の検定試験について

Q 1. 英語検定試験について、TOEFL、英検、IELTS以外は認められないのですか？

A 1. 「学部が求める書類等」に記述した語学検定試験などについては、学部が志願者に求める能力等を客観的に判断する材料の1つとして、例示をしたものです。したがって、求める能力等を客観的に判断することが可能であれば、他の検定試験等の結果の提出でもかまいません。

## 2. 「総合的な学習の時間」の成果について

Q 1. 「総合的な学習の時間」では、論文に限らず、学校の個性・特色に応じて、多様な成果物がまとめられていますが、それらも評価の対象となり得ますか？

A 1. 各学部の推薦要件に合致することを客観的に証明する資料であれば、「総合的な学習の時間」や「課題研究」の成果等も、評価の対象となり得ます。

## 3. 国際バカロレアについて

Q 1. 国際バカロレアは現在一部の高校にしか導入されていません。一部の学部はそれらの成績を判断材料に含めるということですが、それは国際バカロレアを導入している一部の高校を優遇することになり、不公平ではないのですか？

A 1. 国際バカロレアを履修していれば有利になるというのではなく、あくまでも国際バカロレアで優秀な成績を修めたことが評価されるものです。また、国際バカロレアは、能力を示す判断材料の一部として例示しているものです。あくまでも例示であり、国際バカロレアでなくても能力を示す材料は様々なものがあり得ると考えています。

## 4. 海外留学経験について

Q 1. 海外留学経験を積極的に評価する学部があるのはなぜですか？

A 1. 本学の基本姿勢として、海外留学経験を積むことは、視野を拡げ、知的関心を刺激し、精神面の成長を助けるなど、好ましい効果が期待できるという判断があります。ただし、海外留学をしていればただちに有利になるというのではなく、あくまで、その経験による成果が評価の材料の1つとなるものです。したがって、海外留学経験のない受験生が一方的に不利になるというものではありません。